

評価項目 (Bグループ)

保健師 (指導者)

はい いいえ

研修医の意見を引き出したか		
研修医の質問を引き出したか		
症例の紹介は研修医に理解できるものであったか		
研修医発言を補足する説明があったか		
研修医が理解できるように他の担当者の発言に補足説明したか		
研修医の質問に答えているか		
必要な情報 (介護保険の視点等を含む) が提示できたか		

はい いいえ

所長 (司会)

はい いいえ

研修医を紹介したか		
研修医の意見を引き出したか		
研修医の質問を引き出したか		
研修医発言を補足する説明があったか		
研修医が理解できるように他の担当者の発言に補足説明したか		
研修医の質問に答えているか		
カンファランスに必要な情報を持っているか		
全ての担当者に討論させているか		
結論をまとめるためにリーダーシップをとれたか		
冒頭にカンファランスの狙い等を明確に示したか。		
議論が停滞したときに発言を促せたか		

はい いいえ

Cグループ ケースカンファレンス

指導者評価票	事前		事後	
	はい	いいえ	はい	いいえ
【共通】				
発言時の了承をきちんと得たか		○	○	
他人の意見の傾聴したか	○		○	
他者の意見の意図を明確にして、それに適切に答えようとしたか		○	○	
【指導者（司会者）固有】				
最初にカンファの目的を明確に説明したか		○	○	
問題点の整理にむけた進行を行ったか		○	○	
事例を詳細に事前把握していたか		○	○	
指導医の補助者として研修医の適切な参加を促したか		○	○	
会議の目的が達成されたか		○	○	
発言者全員の意見を聞くなど、適切なコントロールを行ったか		○	○	

保健所長評価票	事前		事後	
	はい	いいえ	はい	いいえ
【共通】				
発言時の了承をきちんと得たか		○	○	
他人の意見の傾聴したか	○		○	
他者の質問の意図を明確にして、それに適切に答えようとしたか		○	○	
【所長】				
主催者の代表として、あいさつを適切におこなったか		○	○	
所長は専門家として適切なアドバイスをおこなったか		○	○	
司会者との役割分担が適切にできていたか		○	○	
会議の目的は達成されたか		○	○	
指導医として、研修医の発言を適宜引き出したか		○	○	

Dグループ

チェックリスト (Check List)

指導者 (保健師)

	はい	いいえ	はい	いいえ
1. 参加者にねぎらいの言葉をかけたか。			<input type="radio"/>	
2. 進行の仕方は適切か。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
3. 発表のしやすい雰囲気を作っていたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
4. 議論の方向性を修正できたか。		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
5. 適切なタイミングで論点をまとめられたか。		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
6. 一部の人に発言が集中していなかったか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
7. 社会資源について十分な知識をもっていたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	

保健所長

1. 冒頭にカンファランスのねらいを説明したか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
2. 参加者にねぎらいの言葉をかけたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
3. 適切なタイミングで助言をしたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
4. 適切な内容の助言をしたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
5. 論点を外れたとき方向を修正できたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
6. 研修医に発言の機会を与えたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
7. 保健所長として必要な知識を持っていたか。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	

4日目 目標、学習・評価方法の設定、ケースメソッド
最終報告

臨床研修指導医養成講習会（地域保健・医療）グループワーク・プロダクト

以下の様式で各グループ・プロダクトを作成

1. 到達目標

各グループのテーマについて、達成されると想定される到達目標を、臨床研修の到達目標「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」より複数選択

2. 一般目標：GIO、行動目標：SB0s

テーマについて一般目標：GIOを設定し、GIOを達成するために必要な行動目標：SB0sを設定

3. 総括的評価として、どの行動目標：SB0sについて、どのような基準で達成とするかを明記

4. 週間スケジュール

行動目標：SB0sを達成する上で必要な場面を設定

5. 学習方法（方略＝方法＋戦略）

週間スケジュールの場面ごとでどのような方法で学習させるのか、具体的には研修医への学習内容、指導医としての指導内容、注意点、それに必要な指導者または補助者、学習媒体を明記

6. 評価方法

- ① 形成的評価として、週間スケジュールの各場面での各行動目標：SB0sについて、いつ、どのように評価するのか（評価方法）を明記
- ② 指導医へのフィードバック方法について明記

7. ケース設定（ケースメソッド法による）

テーマにそったケースを設定し、行動目標：SB0sを評価するための設問および解答ポイントを設定

Aグループ

保健行政システム

達成される到達目標

保健所の役割について理解し、実践する。
保健医療法規・制度を理解し適切に行動できる。

一般目標: GIO→

臨床医に必要な行政システムを理解し適応できる。
医療の社会性を向上させる能力を身につける。

行動目標: SBOs→

1. 各種届出の仕組みを理解する。
2. 保健行政システムの流れを理解する。
3. 法制度の仕組みを理解する。
4. 予算の仕組みを理解する。
5. 行政判断(権限)を知る。
6. 地域の社会資源を知る。
7. コミュニケーション能力(所内・所外)を身につける。
8. 各種届出の不備を指摘できる。
9. 保健行政としての患者支援ができる。
10. 社会資源を活用できる。
11. 関係者・関係機関の調整ができる。

週間スケジュール	〇月〇日 月	〇月〇日 火	〇月〇日 水	〇月〇日 木	〇月〇日 金
午前	オリエンテーション 発生届の確認	研修会資料作成	家庭訪問 病院訪問	所内検討会 結核診査会準備	研修会・会議
午後	結核検診(定期外検診) 模擬演習	医療監視	定期外健診 サーベイランス入力 模擬演習	結核診査会 結核事務の流れ	まとめ

評価する行動目標:SBOs	
どのような基準で達成とするか	1. 各種届出の仕組みを理解する。 2. 保健行政システムの流れを理解する。 3. 法制度の仕組みを理解する。 5. 行政判断(権限)を知る。
1) 行政システムにおける届出の重要性を理解できたか?	2. 保健行政システムの流れを理解する。 3. 法制度の仕組みを理解する。 5. 行政判断(権限)を知る。
2) 行政による監視指導の意義を理解できたか?	6. 地域を社会資源を知る。 7. コミュニケーション能力(所内・所外)を身につける。 10. 社会資源を活用できる。 11. 関係者・関係機関の調整ができる。
3) 地域における医療機関と社会資源との連携の重要性を理解し適応できたか?	

場面	行動目標	学習方法(方略)			評価方法				
		指導者、補助者 所長、課長	研修医への学習内容 結核予防法に基づく制度の しくみを指導する。	指導医としての指導内容 結核予防法に基づく制度の しくみを指導する。	注意点	学習媒体	いつ	どのように評価するか	指導医へのフィードバック
オリエンテーション	法のしくみを理解する。	所長、課長	結核予防法を理解し、申請 書と届出票の不備を理解す る。	結核予防法を理解し、申請 書と届出票の不備を指導する。		資料 法令集 紙			指導医へのフィードバック
届出の受理	各種届出の仕組みを理解する。 各種届出の不備を指摘できる。	担当者	結核予防法を理解し、申請 書と届出票の不備を理解す る。	正しい届出票の例示	放任しすぎない。	届出票 申請書	学習中	口頭確認	分からないことは直ぐに聞く。
監視	保健行政の流れを理解する。 行政判断(権限)を知る。	医師 薬剤師 保健師ほか	監視の意義と重要性の理 解 医療法の理解 院内感染防止対策の理解	院内感染防止対策	失着しない 身分をわきまえる。	監視資料	学習後	レポート	レポートから到達度を見る。
定期外検診	保健行政の流れを理解する。 コミュニケーション能力を身につけ る。	担当医 放射線技師 保健師	問診 読影	お手本を示す。 監督	なし	デジタルカード	学習中	実施試験・観察記録	一場面ごとに質問・フォローする。
家庭訪問	コミュニケーション能力を身につけ る。 患者支援ができる。 社会資源を活用できる。 関係者関係機関の調整ができる。	保健師	社会資源を知り、関係機関 と調整し、コミュニケーション 能力を身につける。	面接技法を学ばせる。	言葉づかい、身だしなみ に気をつける。 プライバシー保護に気を つけ失言しない。	デジタルカード	学習中	観察記録・(実施試験)	訪問ごとに質問・フォロー
所内検討会	行政判断(権限)を知る。 各種届出の不備を知る。	所長 担当者	定期外検診の方針決定の プロセスを通じて行政判断 割を理解する。	助言	積極的に判断させる	デジタルカード 届出票	学習中	実施試験・(観察記録)	各議題ごとに質問・フォロー
結核診査会	予算のしくみを理解する。 行政判断(権限)を知る。	所長 審査委員 担当者	行政の格闘機関としての役 割を理解する。	指導	プレゼンテーションを削い た発言はしない。	デジタルカード 届出票 レントゲン	学習後	実施試験	プレゼンテーションの内容
サーベイランス入力	行政システムの流れを理解する。	担当者	統計情報の理解、集団とし てみる視点をもた、行政の 役割を理解する。	サーベイランス入力、見方 を指導	単独で判断させない。	パソコン 届出票	学習後	口頭試問	分からないことは直ぐに聞く。
研修会資料作成	行政システムの流れを理解する。 法制度のしくみを理解する。	テーマの担当者	行政システムと法制度を理 解した資料作成ができる。	資料作成の助言および指 導	研修医の自主性の尊重	紙、資料	学習後	実施試験	分からないことは直ぐに聞く。
結核事務の流れ	行政システムの流れを理解する。 予算のしくみを理解する。	所長、担当者	患者業務、決裁の流れを理 解し、予算と行政事務を	説明		パソコン 患者票	学習後	口頭試問	分からないことは直ぐに聞く。
研修会・会議	コミュニケーション能力を身につけ る。	所長	研修会や会議の目的を理 解し、運営方法を学び、コ ミュニケーション能力を身に		積極的に適切な場面で参 加させる。	資料	学習中	実施試験	終了後に質問する。

保健行政システム Case Study

結核対策、院内感染対策を通して

1

結核患者の届け出

- 河北太郎医師から保健所に結核の届け出
- 患者:和光花子、45歳、女性、看護師
- 主訴:2ヶ月間の咳
- 疫検査:抗酸菌塗抹陽性(G5号)

2

結核予防法

- ポイント
 - 届け出
 - 公費負担制度
 - 命令入所
 - 患者登録票作成
 - 患者面接、家庭訪問
 - 定期外健康診断

4

和光花子さんの調査結果情報

- 職業:H訪問看護ステーションの看護師
 - 診断直前まで訪問看護師の仕事を経験
- 6ヶ月前に関連施設であるH病院から転勤
- 過去2年間は職場の健康診断未受診。医療機関受診もなし。
- 前職場で、2年前に結核患者の看護をした直後に胸部X線検査(CXR)を受けたが、異常を指摘されなかった。

7

Q:この患者さんについて、結核予防法のどの項目が関連していますか？

3

疫学調査

- ポイント
 - 医療機関からの情報収集
 - 感染源調査や接触者調査の資料とするため
 - 本人や家族から
 - 生活、行動、感染源等について情報を集める

6

Q:あなたは、何を目的に、どこから、どのような追加情報を収集しますか？

5

定期外健康診断

- ポイント
 - 接触者の健康診断
 - 定期以外の健康診断

9

Q:定期外健康診断とは何ですか？

6

Q:どのような定期外健康診断を行いますか？

10

定期外健康診断の実施

- ポイント
 - 接触者調査
 - 健診範囲、健診時期、健診方法の検討
 - 健診の実施
 - 健診結果の分析
 - 健診後の対応

11

Q:感染源調査はどのように行いますか？

12

感染源調査

- ポイント
 - 特に過去2-3年の感染性結核患者との接触歴の有無を確認する。
 - サーベイランスデータを確認する。
 - 感染源調査対象
 - 家族
 - H問看護ステーション
 - 職員、利用者とその家族
 - H病院
 - H病院へ調査を行うことを連絡する。

13

訪問看護先から結核患者発見

- 保健所の定期外健診で発見
- 患者:日元肇さん
 - 70歳男性、半身不全麻痺、杖歩行
 - 痰抗酸菌塗抹検査陰性、結核PCR陽性
 - CXRIにて結核を思わせる陰影有
 - 全身状態は比較的良好だが服薬管理困難
- 方針
 - 在宅でDOTSを実施することになった。

14

Q:DOTSの必要性について述べて下さい。

15

DOTSの必要性

- ポイント
 - 治療中断者の予測ができない。
 - 治療中断は、再発と耐性結核の発生につながる。
 - 患者の服薬を直接確認する。

16

Q:日元肇さんのDOTSを実施する際に、連携する社会資源は何ですか？

17

社会資源の活用

- ポイント
 - 訪問看護ステーションと連携
 - 医療機関(主治医)との連携

18

保健所によるH病院の調査

- ・非結核専門病院
- ・院内感染症対策委員会
 - 実質的には機能していない。
 - 院内感染症対策委員長は29歳男性内科医
- ・2年前に66歳女性の松竹梅子さんが結核であった
 - 保健所には届け出ていない。
 - 診断直後に、患者入院病棟スタッフ全員のCXR検査を実施したが、異常者はいなかった。

19

松竹梅子さんへのH病院の対応

- ・66歳女性、G3号、2ヶ月間の咳
 - 地域の目を気にして、主治医の神奈原次郎医師へ「自費診療で内服にしてください」と依頼した。
 - 主治医である神奈原次郎医師は、患者の松竹梅子さんの意向に従い、入院・内服治療を実施した。
 - 保健所へは届け出なかった。
 - 院内感染症対策委員会へ連絡したが委員会は開催なし
 - 結核診断直後に入院病棟スタッフのCXR検査を1回実施、異常者はいなかった。
 - 患者発病1年後の肺結核定期健診を、和光花子さん受けていなかった。

20

患者診断時の対応の問題

- ・ポイント
 - 保健所への届け出がなかった。
 - 松竹梅子さんが一般病棟へ入院していた。
 - 公費負担申請がなかった。
 - 接触者健診について保健所に相談がなかった。

21

Q:保健所として、松竹梅子さんへのH病院の対応における問題を挙げて下さい。

21

結核への病院の組織的対応

- ・ポイント
 - 定期外健診の進め方が不適切であった。
 - 院内感染対策委員会が開催されていなかった。
 - 職員健康管理が徹底されていなかった。
 - ・ 未就診者が確認されていなかった。

24

Q:結核患者が発見された時の病院としての対応の問題点を挙げて下さい。

23

保健所の指導

- ・ポイント
 - 随時立ち入り検査
 - 指導
 - 改善計画書を求める
 - 改善計画の実施の確認

28

Q:保健所は、医療法違反に対する指導をどのように実施しますか？

25

Bグループ

感染症対策(結核を含む)

達成される到達目標

保健所の役割について理解し、実践する
関係機関や諸団体の担当者とのコミュニケーションがとれる
保健医療法規、制度を理解し適切に行動できる

一般目標:(GIO)

医師として感染症を診断したとき、感染拡大防止のために必要な対応を理解し実践できる
関係法規を理解し、行政対応を知る
人権に配慮して行動できる

行動目標:(SBOs)

- ① 届け出後の行政対応を理解する
- ② 公費負担制度の利用が適切にできる
- ③ 患者家族のプライバシーに配慮して対応する
- ④ つねに集団感染を念頭においた対応が出来る
- ⑤ 正確な情報に基づいて保健所、院内感染対策委員会と連携し院内感染感染拡大防止ができる
- ⑥ 疾患に対応した消毒を理解する
- ⑦ 感染症対策について患者、家族に説明できる
- ⑧ 感染症結核サーベイランスが利用できる
- ⑨ 予防接種を理解し説明できる
- ⑩ 感染症に応じた検査診断が行える
- ⑪ 結核の標準治療およびDOTを行える

第1週

週間スケジュール	○月○日 月	○月○日 火	○月○日 水	○月○日 木	○月○日 金
午前	オリエンテーション	訪問準備	審査会準備	サーベイランス	管理・接触者検診
午後	模擬演習(ケース1) 結核受付	病院訪問	家庭訪問	結核診査会	模擬演習(ケース1) 中間評価

第1週の目標:結核という一つの感染症を題材にプライバシーに配慮した感染症の基本的な面接が行える、関係法を理解し行政対応の流れを知る

第2週

週間スケジュール	○月○日 月	○月○日 火	○月○日 水	○月○日 木	○月○日 金
午前	模擬演習(ケース2)	予防接種の事前 演習	講演会 講演会 講演会	衛生研究所	HIV検査・面接
午後	食中毒の立ち入り	予防接種	医療機関立ち入り	感染症講演会	模擬演習(ケース2) 最終評価・総括

第2週の目標:第1週を土台にして、他の感染症への対応を知る、関係職種・関係機関との連携を学ぶ

どのような基準で達成とするか	評価する行動目標:SBOs
医師として感染拡大防止について説明できる	④ ⑤ ⑥ ⑨
人権に配慮した対応ができる	③ ⑦
届出票の記入ができる	① ② ⑧

場面	行動目標		学習方法(方略)			評価方法		
	SBOs	指導者、補助者	研修医への学習内容	指導医としての指導内容	注意点	学習媒体	いつ	どのように評価するか
オリエンテーション		指導者、補助者 所長	2週間の研修の流れを知る	指導医としての指導内容 2週間の研修の流れを知らせる	職員に研修医の存在を知らせてもらう		いつ	指導医へのフィードバック 1週目から2週目へスムーズに移行できるようにする
模擬演習	①から⑩のすべて	医師 医師	保徳所の組織を理解する 感染症対応をするときのポイントを知らせる	保徳所の組織を理解させる 研修期間中にどんなことを学んだか気づかせる	1回目と2回目の変化に気づかせる		開始時→ 第1週終了時→ 第2週開始時→ プログラム終了時→	模擬演習(ケースメソッド1) 研修医に答えを出させるようにする
結核受付(保健所面接)	①届け出後の行政対応を理解する ②公費負担制度の利用が適切にできる ③患者家族のプライバシーに配慮して対応する ④感染症対策について患者、家族に説明できる ⑤予防接種を理解し説明できる	結核事務担当 保徳師 医師	結核予防法の内容、届出、公費負担申請 ビジュアルカードの理解、記載 添付X-線のチェックをする プライバシーを配慮した面接が行える 服薬支援、結核治療を知る	結核予防法の理解させる	申請書 参考書 ビジュアルカード		ビジュアルカード記入後	記入後の検討会
結核の病院訪問	①届け出後の行政対応を理解する	医師 保徳師	本人・接触者の情報収集	相手との信頼関係を築く	プライバシーの保護		病院訪問後、記録記入後	実際に保徳師が患者面接。 訪問記録記入後、質問。 実地試験 観察記録 口答試験
家庭訪問	①届け出後の行政対応を理解する ③患者家族のプライバシーに配慮して対応する ⑦感染症対策について患者、家族に説明できる	保徳師	プライバシーを配慮した病気の説明が行える 結核の感染拡大防止の指導 医療脱落防止指導を行う	患者の社会的状況に配慮した面接指導を行わせる 治療終了の確認、フォローの必要性の理解をさせる	プライバシーの保護		家庭訪問記録記入後	実際に患者面接を行う。 研修医が主体的に面接を行ったか。 記入後の検討会
サーベイランス入力	④つねに集団感染を念頭に適切な対応が出来る ⑤感染症結核サーベイランスが利用できる	医師 入力担当者	データ解析	サーベイランスの意義を理解させる	プライバシーの保護 データの管理	パソコン 出力データ 統計ソフト	実施後	口答試験 レポート
結核診査会(所内検討会)	④つねに集団感染を念頭に適切な対応が出来る ⑤正確な情報に基づいて保徳所、院内感染対策委員会と連携し院内感染感染拡大防止ができる ⑩感染症に適切な検査診断が行える	医師	結核診断 非定型抗酸菌について知る 結核予防法34・35条 定期外検診計画	患者の不利にならないように情報を収集しプレゼンテーションを行う	承認を妨げる原因に事前気づく	診査会資料	診査会終了後	プレゼンテーションを行う。定期外検診計画を立案する。 実地試験
管理・接触者検診	①届け出後の行政対応を理解する ⑦感染症対策について患者、家族に説明できる	保徳師 医師	X-線読影と分類 ツ反検種と判定	管理検診の意義を教える 再発率についてもコメントする	対象者への十分な説明 (再発を含めて)	結核予防会出版物 食中毒のリーフレット 参考書	管理検診終了後 立ち入り検査終了後	実際に読影、ツ反判定、指導を行う 口答試験 レポート
食中毒の面接・立ち入り(消毒)	①届け出後の行政対応を理解する ⑤正確な情報に基づいて保徳所、院内感染対策委員会と連携し院内感染感染拡大防止ができる ⑥疾患に適切な消毒を理解する	食品衛生監視員	感染発生時消毒のポイントを理解 監視員の役割を理解する 喫煙調査、健康調査を行うことが出来る	食品衛生法と立ち入り検査の意義を理解させる 現場でのチェックポイントの理解をさせる 立ち入り後の説明での配慮事項を理解させる				重要ポイントを理解しているか
予防接種	④予防接種を理解し説明できる	事務担当 保徳師、看護師 医師	保徳所で実施する予防接種を全体的流れを理解する	保徳所への説明や相談への対応を学ばせる	正しく安全に接種する	テキスト	準備時	知識のみに終わらずポイントを理解しているか

場面	学習方法(方除)			評価方法					
	行動目標	指導者、補助者	研修医への学習内容	指導医としての指導内容	注意点	学習媒体	いつ	どのように評価するか	指導医へのフィードバック
立ち入り(医療機関)	SBOs ⑤正確な情報に基づいて保健所、院内感染対策委員会と連携し院内感染感染拡大防止ができる	医療監視担当者 薬剤師 医師	研修医への学習内容 医療監視の目的と内容を知る 法令と根拠を理解する 院内感染対策委員会のしくみを理解する	保健所と院内感染対策委員会との連携を理解させる 医療監視の目的と役割を理解させる		院内感染対策マニュアル 医療法	立ち入り検査時	観察記録	指導医へのフィードバック 見学だけに終わらせ ない
衛生研究所	⑩感染症に応じた検査診断が行える	衛生研究所担当者	院内感染対策について知る 検査の処理の概略を理解する	検査の扱い、検査に要する時間 などを中心に指導する。		所内マニュアル	研修終了後	レポート	
感染症予防講習会の講師	①届け出後の行政対応を理解する ⑦感染症対策について患者、家族に説明できる	医師 食品衛生監視員 保健師	食品衛生の立ち入り検査 保育所等の職員への講義し理解してもらう	講義上での注意点の指導する		所内資料 パンフレット パソコン	準備終了時	シミュレーション (平行演習)	
HIV検査	③患者家族のプライバシーに配慮して対応する ④感染症結核サーベイランスが利用できる	保健師 医師	HIV検査前カウンセリングとHIV結果返却を行う HIVおよびSTDについて説明する	検査希望者に人権に配慮してわかりやすく説明させる 受診者の不安を解消し予防行動につなげる		HIVパンフレット 統計資料	準備時	シミュレーション 模擬試験	知識のみに終わらず ポイントを理解しているか

感染症対策
結核編
ケース①
Bグループ

1

ケース① 15歳 女性

症状 1ヶ月前から咳が続いている。
ここ1週間は微熱もあるとことで、
近くの病院を受診し、胸部X線写真
を撮影した。

質問①: 診察後本人に何を話しますか。

2

キーワード①

- ・感染拡大予防について指示しましたか
- ・結核を念頭に置いた説明をしましたか

3

抗生剤の治療1週間後、胸痛と血痰が
出現し、再度受診したので入院させた。

・ 質問②
どんな検査をしますか？

4

キーワード②

- ・ 喀痰検査
- ・ 家族に同様な症状の者の有無

5

菌検査の結果、塗抹陽性ガフキ-4号
との結果が検査室より報告された

質問③
次に何をしますか？

6

キーワード③

- ・ 細菌検査の確認(PCRの確認)
- ・ 保健所へ相談
- ・ 院内感染症対策委員会との連携
- ・ 結核の発生届出

7

質問④

実際に届け出用紙を作成しなさい。

8

キーワード④

結核予防法
発生時の届け出は2日以内

9

本人へ検査の結果と、結核の説明を行います。

質問⑤

本人に説明する内容は？

10

キーワード⑤

- ・結核について
- ・感染経路
- ・結核病院への転院について
- ・感染拡大予防策
- ・届け出が必要な感染症であること

11

結核病院から35条の公費負担が提出されました。医師Bは担当保健師に本人面接を指示しました。

質問⑦

・どの様な話をし、内容を聞き取ってくるように指示しますか？

14

キーワード⑥

- ・家族構成
- ・感染予防の指導
- ・検診の必要性
- ・公費負担制度の説明
- ・結核予防法
- ・保健所の役割

13

・家族構成:

父:45歳会社員、
母:40歳主婦、
弟:10歳小4、
祖母:70歳

・本人の状況:
中学3年で、入院直前まで通学していた。
クラブはパソコンクラブで週3日放課後2時間行っていた。
塾は週3回、通っていた。

16

保健所医師Bは、22条の届け出を持参した母親から、受理しました。

質問⑥

・母親にどんな情報を尋ねますか？
・どのような保健指導をしますか？

12

キーワード⑦

- ・結核対策における保健所の役割
- ・病状調査、接触者検診のための日常生活調査
- ・感染拡大防止のための指導
- ・命令入所
- ・服薬指導

15

キーワード⑧

- ・感染危険度指数
- ・定期外検診

18

保健所内で検討会議を開催した。患者の感染危険度を判断して、接触者検診の計画を討議した。

質問⑧

接触者検診の対象者とスケジュールを立案しなさい。

17

結核診査会が開催され、承認されました。

質問⑨

結核の診断、治療について述べなさい。

19

キーワード⑨

- 標準治療
- DOT
- X線の学会病型分類

20

結核サーベイランスに患者情報を入れました。

- 質問⑩: 結核サーベイランス情報から、保健所管内の蔓延状況を把握しなさい。

21

キーワード⑩

- サーベイランス
- 罹患率
- 定期病状報告書

22

感染症対策
0157編(改訂)
ケース②

Bグループ

ケース② 3歳 男児

○月11日 今朝から腹痛、下痢2回があり、受診をしました。感染性下痢症も念頭において、2次感染予防を指導し、加療しました。

○月2日 血便となり、再受診しました。脱水症状を併せていたので、入院させ、便検査を行い、点滴を開始しました。

○月4日 便検査で腸管出血性大腸菌O157が検出されたため検査室より連絡を受けました。そこで、主治医は管轄保健所へ感染症の届出を行いました。

質問①:届出を行う前に確認すべきことは?

キーワード①

- ・細菌検査の確認(ペロ毒素の有無)
- ・保健所へ相談
- ・院内感染症対策委員会との連携
- ・家族に同様な症状の者の有無
- ・集団生活の有無

ペロ毒素の届出が確認されました。

質問②

- ・届出用紙を作成下さい。
- ・届出が必要な感染症と根拠法令、届出内容を列挙下さい。

キーワード②

- ・感染症新法(1～5類)
各分類の届出の内容と対応

キーワード③

- ・二次感染予防
- ・感染症法に基づき、保健所へ届出たので家族も保健所の指導を受けること

保健所医師Bが主治医から、届け出を受けました。さらに、患児の兄が今朝から下痢をしていること、また、兄弟は同じ保育園に通っていることを把握しました。

質問④

- ・保健所医師Bは所内での情報共有のためにカンファレンスを開きます。どの職種を業めますか?

キーワード④

- ・保健所職員の職種と役割

母親へ便検査の結果と、腸管出血性大腸菌感染症の説明を行いました。

質問③

母親に説明する内容は?

質問⑤

所内会議の席上で、保健所医師Bは感染拡大防止のために何か必要か意見を求められました。

10

キーワード⑤

- ・ 家族検診
- ・ 喫食調査
- ・ 保育園調査
- ・ サーベイランスの把握

11

キーワード⑥

- ・ 感染症対策における保健所の役割
- ・ 健康調査、喫食調査
- ・ 感染拡大防止のための指導
- ・ 2次感染予防指導、消毒指導
- ・ 治療後フォロー終了までのスケジュール（検便など）
- ・ 兄の受診勧奨

13

患者の兄以外は無症状でした。母親を含めて、患者家族全員の検便を行いました。父親はサラリーマンで事務職でしたが、母親はパートで総菜屋に勤務し、調理を行っていました。保健所医師Bは母親から、パート勤務を続けることについて相談を受けました。

質問⑥

- ・ 母親のパート勤務についてどう回答しますか？

16

喫食調査から、患児の食事は保育園の給食以外は朝、夕の食事はすべて母親が調理をしていました。4日前に、本家族全員と友人家族5人と一緒に自宅でバーベキューパーティーを行っていました。外食は発病1週間前にファミリーレストランで、焼き肉定食を食べた以外にありませんでした。

質問⑦

- ・ 喫食調査から、他に調査すべきことは何ですか？

14

キーワード⑧

- ・ 一般的な腸管出血性大腸菌の就業制限
- ・ 本事例の場合
検便結果が出るまでの指導

17

所内会議で情報共有がされ、役割分担がされました。保健所医師Bと保健師と食品衛生監視員が病院訪問して母親と面接することになりました。兄は朝から下痢を3〜4回していましたが、受診をしていませんでした。

質問⑧

- ・ 健康調査、喫食調査の内容を作成しなさい。
- ・ 母親へは何を指導しますか？

12

キーワード⑦

- ・ 友人家族の健康調査
- ・ ファミリーレストランの有症苦情の有無

15

保健所医師Bは保育園に保健師と食品衛生監視員、環境監視員と一緒に調査に行きました。

質問⑨

- ・ 何を調査しますか？

18

キーワード⑤

- ・下痢症の流行の有無を把握する
材料：出欠表、名簿、健康観察記録
- ・給食の提供状況を把握する
- ・水(プール、飲料水)の状況

19

キーワード⑩

- ・患者の自宅
- ・感染源の特定に必要な情報

21

母親からの面接情報と、保育園調査情報をもとに所内会議を再び開きました。

質問⑩
他に確認すべき情報がありますか？

20

保健所医師Bは母親から、次のような患児の予防接種についての相談を受けました。
三種混合の1期3回目が予定されていましたが、入院によって受けることができなくなりました。どうしたらよいですか？

質問⑪
どう答えますか？

22

キーワード⑪
予防接種法
(接種対象年齢)

23

Cグループ

感染症への対応

達成される到達目標

保健所の役割について理解し実践する

医療法規・制度を理解し適切に行動できる。

一般目標: GIO→

感染症に的確に対応できるようにするために感染症の発生予防・拡大防止に関わる対策を理解し、感染症発生時及びその後の対応を身につける。

行動目標: SBOs→

- ① 感染症関連法規を理解する。
- ② 感染症の社会的意義の認識し啓発できる。
- ③ 保健所内での対応を理解できる。
- ④ 当事者への説明・指導ができる。
- ⑤ 人権プライバシーへの配慮できる。
- ⑥ 関係機関との連携ができる。
- ⑦ 保健所の行政権限を理解する。

週間スケジュール	○月○日 月	○月○日 火	○月○日 水	○月○日 木	○月○日 金
午 前	オリエンテーション	所内検討会 関係機関連絡(学校)	サーベイランス	関係機関連絡(福祉施設)	衛生教育
午 後	届出受理・疫学調査・家庭訪問	疫学調査・家庭訪問	食品衛生監視 意見交換会	結核診査会	研修のふりかえり 最終アンケート まとめ

どのような基準で達成とすか		評価する行動目標:SBOs
<p>疾病類型が言える。 届出義務のある疾患等について理解する。 届出書が記入できる。 疫学調査票が記入できる。 サーベイランスの意義を理解し活用できるようになる。</p>	<p>① 感染症関連法規の理解する。 ② 感染症の社会的意義の認識し啓発できる。</p>	